

# サクラマスの事業化の展望と課題は

## 市場性が高く安定した生産体制の実現

**議員** サクラマスの海面養殖試験事業から得た課題・問題と事業化に向けた展望と課題について伺う。

**市長** 当市水産業の主力魚種である秋サケは、県全体の漁獲量は平成8年の7万3526トン、をピークに、平成18年が2万8422トン、令和元年が2287トン、令和2年が1734トン、令和4年1月末が413トンと激減している。水産資源の減少により近年、計画的な生産が期待できる魚類養殖事業が注目され、事業化に向けた試験研究が国内の各地

で動き出している。令和元年から久慈市、宮古市、大槌町でギンザケ・トラウトサーモンの海面養殖試験が実施されており、当市においても、令和2年10

月、岩手大学、三陸水産研究センター及び関係事業者とのコンソーシアムを立ち上げ、令和2年度から令和5年度までの期間を3事業期とする、サクラマス海面養殖試験研究事業を展開している。第1期は、釜石湾の湾口防波堤北防波堤の内側に設置した1基の円形生簀で、令和2年11月から約1万2千尾のサクラマス

の稚魚の飼育を開始し、令和3年6月に約7800尾を釜石市魚市場に水揚げした。水揚げされたサクラマスは、肉質、味などの食味に関する官能試験の結果、

食感や後味、脂の乗り具合が良く、舌触りがなめらかで美味しいとの意見が多く、刺身や焼き魚としての品質評価が高く、消費市場が求める成果が得られた。当市の水産業が、地域経済をけん引する役割を果たしていくためには、持続可能な産業構造としていくことが重要であることから関係機関及び事業者と連携しな

がら、つくり育てる漁業の中核となる養殖試験研究事業への取組を強化し、市場性が高く安定した生産体制の実現を図っていく。

養殖の事業化例が少なく、安定した稚魚の生産体制の確保が急務であり、養殖試験研究と並行し養殖に適した育種開発試験も予定している。コンソーシアムにおいて漁業権取得に向け協議検討を重ねながら、早期事業化の取組を進め関係者との連携を深めていきたい。

**産業振興部長** 第2期では、第1期を上回る生残率の実現を目指し、原因や経過を調査研究しながら計画的な水揚げ・出荷を目指す。



水揚げされたサクラマス

**コンソーシアム**…2つ以上の個人、企業、団体、自治体等あるいはこれらの任意の組合せから成る団体で、共同で何らかの目的に沿った活動を行う団体のこと。

遠藤 幸徳  
(清和クラブ)

### 質問項目

- ・水産行政について
- ・文化行政について